

野菜の展望

昨年は9月～11月まで記録的な気温高となり、直近2年を毎年更新する状況でありました。11月前半は雨が多く、秋冬野菜の播種と重なったため、作型によっては根の活着も悪く、病気の発生も多い年となりました。11月中旬以降は一転干ばつ傾向となり、生育に大きな影響を与えましたが、今後については徐々に回復傾向となる見通しです。2月3日は「立春」で暦の上では春となり、春野菜の売場が徐々に拡大して行くと思われま

す。根菜類の大根は千葉産を中心に九州地方からの入荷で、千葉産はトンネル作へと切替わります。人参は愛知産中心の入荷で、他に九州・関東産の入荷です。愛知産は不作傾向で入荷減となる見込みです。蓮根は石川産中心に茨城産の入荷となります。石川産は積雪が収穫作業に影響する時期となるため、状況によっては出荷量が不安定となりますが、前年に比べ残量は多い見込みです。甘藷は石川主体に茨城産の出回りで、石川産は下級品の発生が多いものの、順調な入荷となる見込みです。

果菜類では胡瓜が高知・愛知・群馬産の入荷で、上旬は若干少ないものの、中旬にやや回復する見込みです。茄子は高知・愛知産、長茄子は福岡・熊本産で平年より少なめの入荷が見込まれます。南瓜はメキシコ産からニュージーランド産へと切り替わりますが、為替の影響により、入荷・価格ともにやや不安定となることが予想されております。トマトは愛知・岐阜・熊本産の入荷で、愛知産のファーストトマトは増量が見込まれますが、平年に比べ少なめの入荷となる見通しです。ピーマンは高知・鹿児島産の入荷で全体的に平年より少ない入荷が予想されます。豆類は九州・四国・東海産地を中心にインゲン・砂糖豌豆・スナップ豌豆・キヌサヤ・そら豆等の入荷がありますが、平年より樹勢が弱く、平年に比べ少なめの入荷となる見通しです。

葉茎菜類の白菜は茨城・兵庫・九州産が中心の入荷となります。茨城産については、前進出荷から平年より終了は早い見込みです。キャベツは愛知産の入荷です。葱は束物が石川・大分から、5kgバラ物は埼玉・群馬からの入荷で、数量は平年よりやや少なめの入荷見通しです。ほうれん草は静岡・群馬・福岡産中心に出回ります。ブロッコリーは九州産主体に愛知・高知産の入荷です。レタスは兵庫・静岡・九州地方からの入荷で、各産地ともに今後の気温低下に左右される場面もありますが、ほぼ平年並みの入荷を見込んでおります。

菌茸類の菌床椎茸は、石川・徳島・富山・兵庫・新潟産等で順調な入荷見込みです。冬期限定の原木椎茸「のと115」については火・木・土曜日販売で徐々に増加傾向です。なめこ・えのき茸は長野・石川産の入荷です。しめじ類は長野県系統物と企業物中心となります。

土物類の馬鈴薯は、北海道産の貯蔵物と鹿児島産の新物が入荷する予定ですが、北海道産は太物が少なく、早期終了となる見通しです。鹿児島産も特に早期出荷分は不作とみられ、今年度は平年より高い単価推移を見込んでいます。玉葱は北海道産の貯蔵物主力の入荷です。昨夏の高温の影響により数量が少なく、価格は堅調推移と見込んでいます。静岡産は平年に比べ入荷は少ない予想です。

2月は節分やバレンタインデーなど多彩なイベントがありますので、各種企画立案の上、販売拡大にご協力をお願い申し上げます。

《取締役野菜担当営業副本部長 嶋田 亮》

果実の展望

今月はまだまだ寒い日が続き、春はまだ遠いようです。

みかんは長崎・静岡・徳島産の入荷があり、長崎・徳島産は2L・Lサイズ中心の入荷となります。静岡産は青島の入荷です。3L中心で、全体では前年の7割程度の出荷量となる予想です。徳島産の貯蔵物は十万温州を中心として上旬からの入荷が見込まれます。

中晩柑類は本格的な出荷となり、伊予柑・八朔・デコポン・ポンカン・清見・せとか・甘夏等が愛媛・和歌山・熊本・佐賀・鹿児島・長崎等の各産地より出揃ってきます。全体的に品質は良好で食べやすい仕上がりとなっています。

伊予柑は愛媛産主力の出回りで、玉流れは3L中心です。八朔は和歌山産主体に週2~3回の販売予定で、Lサイズを中心とし入荷量は前年並みと見られます。デコポンは鹿児島・熊本・佐賀を中心に福岡・和歌山・愛媛産の入荷となります。各産地の出荷量は前年並で、18玉サイズ中心の若干の大玉傾向と予想されます。

メロンについては静岡中心に高知・熊本産の入荷となります。各産地ともに前年よりやや少ない出荷量となる予想です。

莓は愛知・九州の各産地からさがほのか・紅ほっぺ・あまおう・章姫・ゆめのかといった品種が出回り、中旬より二番果の増量が見込まれ、順調な入荷が見込まれます。

りんごは青森産のサンふじ中心に王林・ジョナゴールド等の入荷があります。32・36玉中心の玉流れとなります。

キウイフルーツは愛媛県産中心に和歌山産等の入荷があります。

輸入果実は、バナナでフィリピン産・南米産ともに安定した入荷です。オレンジはカリフォルニア産ネーブル種の入荷で72玉・88玉中心の玉流れとなります。価格はやや高値で推移。グレープフルーツはトルコ産中心の販売となります。レモンはカリフォルニア産中心の販売ですが、高値につき、割安なトルコ産の入荷もあります。パイナップルについてはゴールデン種・スィーティオ種ともに安定した入荷となります。トロピカルはメキシコ産ハネジューメロン・チリ産レッドグローブ・メキシコ産アボカドを中心に南半球の商材が増加してきます。乾燥果実では、甘栗・干芋・干柿等の順調な入荷が見込まれます。今月も何卒宜しくお願い申し上げます。

《取締役果実担当営業副本部長 荒木 智》